

第5学年 社会科

教諭と支援員の合同授業

単元名 公害をこえて（単元「環境を守る私たち」の補助教材）

主題設定の理由

日本は高度成長期、経済を優先し環境対策は置き去りにされてきた。その結果公害病患者を多く出し、おきてはならない悲劇を生み出してしまった。今回は水俣病の被害者とその家族の立場に立って、不合理に対する憤りに共感させたい。世界で初めて水俣病という悲劇を起こした日本はこれを後世に伝え、わたしたち一人ひとりが環境問題を自分の生き方として考えていかなければいけないと考える。

<展開> (2時間)

- 1 スライド（未処理の汚染水が排水されている写真）を見てわかることを話しあう。36年間流された。
- 2 水俣病発生の経緯の説明。食物連鎖による生物濃縮によって発病する流れを絵で示す。  
病気のため曲がってしまった手の写真を見せ、同じようにできるか聞く。
- 3 『みなまたの木』の読み聞かせ。これはひとつの家族の問題でないこと、カラーのページと白黒ページの意味、過去の問題でないことを話す。
- 4 スライドによる問いかけと説明。
  - ・部屋の中で這っている患者の写真。「この女性は何をしていますか？」（以下 問いかけて考えさせる）
  - ・数万匹の猫が実験台になった。
  - ・食事の写真。折れ曲がった指。感覚を失い食事もままならない。
  - ・視力を失った目。水俣病は神経を破壊し、治療不可。患者数、10万人以上。死者4万人以上。
- 5 『証言 水俣病』を読む。水俣病患者が病気と差別、貧困の3つの苦しみをうけたことを押さえ、話し合う。
- 6 スライド
  - ・胎児性水俣病「胎児性水俣病は「宝子」と呼ばれました。なぜそう呼ばれたのでしょうか。」
  - ・裁判を起こす家族  
自由を奪われ、希望を奪われるために生まれてきたのでない、その悔しさや憤り。  
国や県も見過ごしてきた事実。命を軽視してきた事実から私たちは本当の生き方を学ばなくてははいけない。
- 7 授業の感想を書く。

参考資料 『証言 水俣病』（栗原 彬 岩波新書）  
 『水俣写真集』（W ユージン・スミス 三一書房）  
 『日本の公害』（宮本 憲一 日本図書センター）  
 『みなまたの木 』（三枝 三七子 創英社）他



『水俣写真集』より

## 単元名 公害をこえて（単元 「環境を守る私たち」の補助教材）水俣病それから

## 主題設定の理由

水俣病の発生後、水俣市では環境保全の活動が行われている。さて、私たちは真剣に環境に配慮した生活を送っているだろうか。物があふれる生活、お金儲けを第一に考える生活でよいのか。人間にとって豊かな生活とはなにか。真に守るべきものはなにか。これからの生き方を考えさせたい。

## &lt;展開&gt;（2時間） 教諭によるブックトーク＋意見交換の授業

- 1 水俣市の環境問題の取り組みを聞く。水俣市は環境モデル都市としてゴミの分別やリサイクルに取り組んでいる。
- 2 東京都日出町の谷戸沢最終処分場の写真。満杯の埋立地。なくならない廃棄物。  
どんな問題があるか問いかける。  
処分場のゴムシートから有害物質が漏れだしている絵。資料「人権を考える本」から日常生活で出すゴミの中にも有害物質が含まれていることを知る。カドミウム・ダイオキシンが人体に及ぼす害を理解。住民の不安に対する行政の対応。水俣病の後も、同じことが繰り返されていた。
- 3 ホッキョクグマ、ペンギンの写真から考える。（『親が子供に伝えたい「環境」の授業-命はつながっている』より）  
「クマが訴えたいことはなに？」  
『親が子供に伝えたい「環境」の授業』を読む。温室効果ガスの種類、排出量の変化を確認、温暖化の仕組みを理解する。人間の生産活動から生まれる温室効果ガスのせいで動物が危機にさらされていることを知る。
- 4 東日本大震災のスライドから原子力発電を考える  
原子力発電のメリットとデメリットを押さえる。世界各国の対応。  
東日本大震災での放射能拡散図、震災後、秋刀魚が焼かれて廃棄された写真を見せ、放射能汚染、差別、風評被害を考える。  
汚染水がタンクから漏れ出している写真、タンクを作り続けている写真を見て考える。
- 5 使用済み核燃料のゆくえを考える。  
現在は300Mより深い地下に埋められている。地層処分の炭鉱の写真を見せて  
「安全になるまで、どれくらい時間がかかるか？」  
資料（Newton）より安全になるまで数万年かかることを伝える。エネルギーを得るため、手に負えないものに手をつけていることを知る。
- 6 『ゾウの森とポテトチップス』を読む。  
ポテトチップスの原料はマレーシアから大量輸入されている。大量生産のためプランテーションを作ったがそこではゾウたちは生きることができない。人間が好きなものを食べるために森にすんでいたゾウが住処をおわれ、背中を焼かれている現実をみて話し合う。
- 7 昭和時代の写真を見せる。食生活、遊び、家族や人の関わりなど現代と比較する。
- 8 『もったいない』の紹介。  
日本人がものを大切にす文化を受け継いできたこと、現代ではその精神が失われつつある。その文化の価値を外国人のマータイさんが世界に紹介したこと、児童がもっているものや身近なもので自分の生活を省みさせる。
- 9 環境破壊は人間が起こしてきた事実があるが、また私たちはそれを変換させるちからを持っている。  
『地球のしあわせ』を読む。

## 10 感想を書く。

参考資料『ゾウの森とポテトチップス』（横塚眞己夫 著 そうえん社）

『Newton』2014.4月号（ニュートンプレス）

『親が子供に伝えたい『環境』の授業』（小菅正夫 角川書店）

『もったいない』（プラネット・リンク編 マガジンハウス）

『地球のしあわせ』（藤原 幸一 日本出版社）

### 児童の感想

☆ よく「この〇〇は植物油を使用しています」と書いてあって、へーと思っていたけどゾウや生き物を傷つけていることを知って悲しくなりました。毎年北海道と同じ大きさの森林が消えているとは知りませんでした。

『もったいない』の本でなんで日本人は外国人に教えられているのかと思いました。私は兄のお下がりの服が好きです。あまりゴテゴテしていないしゆったりしているからです。私の今は持っているスカートも近くに住む人からのお下がりだと思うし、祖母の着物を着たこともあります。うちではお下がり結構使われるのに、あまりないと知って驚きました。（略）

たくさん知識を広げて、守りたいもの（守るべきもの）を自分で守りたいと思いました。

☆ 今日の授業でゴミの量がとてつもなく出ているのをみて、もっとゴミを減らす方法はないかと考えました。生き物のすみかをうばったり殺したりしているのは人間だと知って本当に申しわけないなと感じました。このようなことをずっとしつづけていると世界に影響をあたえ、ぼくたち人間も住めなくなる悪い環境になってしまいます。ひとりひとりがゴミを少しでも出さないように日ごろから心がけたらゴミも減ると思いました。毎日きれいにすごせることはとっても心が気持ち良いです。生き物たちが安心して過ごせて人間もゴミを出さずすべてのものが安心してすごせるそんな世界を作りたいです。

☆ ～略～ 幸せというのは今自分ができていることや生きていること、家族といっしょにいられることだと思いました。